

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[金沢星稜大学] 担当教諭名[清水 和久] (星稜ジャンププロジェクト 15名)

交流相手国[フィリピン]

海外学校名[Mindanao Kokusai Daigaku] 担当教諭名[井上 直之]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	国際ボランティア講座	開発途上国の現状の理解と日本との関わり	16
	国際ボランティア講座	MKD の学生と仲良くなろう	16
	課外活動	星稜ジャンププロジェクト(SJP)	14

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	両国の抱える課題点とそれぞれの自慢、そして将来の姿
絵に込めたメッセージ	一番下段には自国の課題を自国で表現(日本:引きこもりや、いじめ、政治無関心、フィリピン:時間にルーズ、賄賂、ごみ問題)、中段には、相手国のおすすめ点を表現(日本:四季の変化を鳥獣戯画風に、フィリピン:自然のすばらしさを現地の動物で)。上段は理想の姿。中心は両国の伝統的な人物の特徴を描画



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 大学の授業で開発途上国の現状について学び、フィリピンを訪問し、大学生と交流したうえで、壁画を描いたので、自分たちの実感を込めることができた。 訪問することで他のフィリピンのアートマイルに参加している小学校にも訪問でき、金沢の小学校との橋渡し役になれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰国後に報告書の作成で時間をとってしまい、実際の交流が一時中断した。 壁画についてももう少し共同調査などをおこなってそれが反映できるものであればもっと良い 自分たちが参加と同時に他の参加小学校にもっとICTで支援し活動を援助していきたい。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 当初フィリピンについての関心は高くないが、「100人村ワーク」で貧富の差を学び、相手とペアーを決めてラインで個別交流、最後に相手国を訪問した。 この活動で、相手の表現力の豊かさ、やさしさ、前向きな生き方、そして英語の重要性に気が付いた。 ほとんどの教員系の学生は自分が教師になったら、国際交流をやってみたいと思うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生は、実際に相手国にいける可能性が高いので、授業の中にそれを組み込むことの必要性を感じている。 教員養成系の大学の取り組みは、児童側と教師側の2つの側面からプロジェクトを体験させる事が可能。現場の小学校へ支援という形でのかかわりをもっと深める必要がある。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	学生の反応	実施教科等
自己紹介	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> 世界の現状について知る 開発途上国の学習 フィリピンについてのレポート作成 自己紹介ビデオの作成 訪問前のフィリピンとのTV会議 	世界の貧富の差について知る。 小学校向けに100人村ワークショップの企画からわかりやすい伝え方について学べた 英語の必要性の実感	国際ボランティア講義16
テーマ学習	9月	<ul style="list-style-type: none"> フィリピン訪問(9月) 孤児院ハウスオブジョイへの訪問 ミンダナオ国際大学(MKD)との交流 船を借りてのアイランドホッピング 100人村英語版ワークショップ 	TV会議の相手と実際に会えて喜ぶ 相手国を実際に訪問できて、事前学習した内容と比較できた。 経済格差が大きく、貧困で困っている人も多いが、人情味あふれるフィリピンの国民性を体感できた。	国際ボランティア演習(現地で2日間)16
構図決定	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> 帰国後の、レポートの作成。フィリピン報告会 フィリピン講演会の企画実施 構図の構想 TV会議で構図決定 	MKDの学生の個人のパフォーマンス力(英語、ダンス、笑顔)に圧倒されたという感想が多い。 海の美しさ、子どもの純真さを壁画に表わしたい。	SJPとして課外活動3
壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 壁画の下書きと描画 	1人1人が描く場所を決め、描き切ることができたことへの満足感	SJPとして課外活動10
鑑賞・振り返り	3月	<ul style="list-style-type: none"> 3月8日返却 一部で鑑賞会の実施 全体観賞会は4月に実施予定 	中心人物のフィリピン側の部分に興味津々。 相手の絵で疑問点は各自がラインで尋ねることになった。	SJPとして課外活動1

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	現地では100人村を実施することに力を入れたので、日本についての紹介は、あまりできなかったから
異文化の理解	A	5	現地を訪問しているので絵には自分たちが感じたフィリピンの自然の美しさを描くことができたため
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	A	5	学生は各自パートナーを決めラインなどで日常的に情報交換をすることができたから、また実際に会い交流を深められた
情報活用能力(情報収集・発信)	A	3	学生は個人的にはラインなどで連絡を取ってはいるが、表面的にはあま可視化できなかったため
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	A	4	交流相手とは実際に会えたので、気心も知れ、帰国後も交流が長く続いたから。グループ内では任務分担ができた。
協働する力(役割分担・協力)	A	4	後半のSJPの活動では課外にも関わらず、清水ゼミの学生を中心に自主的に活動できたから
学習を追究する意欲	A	5	文献学習から入り、実際に交流相手と会い、帰国後に壁画で表すことによってよりもう一度振り返りができ、学習を深められた。
表現力(伝えたいことを絵で表す)	B	5	中段に描いた相手国の現状として、自分たちが体験した美しい海の風景を描くことができたため
作品を鑑賞する力	B	3	全体での鑑賞ではないが、フィリピンの現状の問題点についてみただけではわからない点があり十分深められていないから